

第2回 ~ 言語活動の充実に向けて ~

主体的な学習を促すための単元（授業）構成とは？

第1回目は、『課題設定の工夫』について、ご説明しましたが、今回は、どのように単元（授業）を構成の工夫をしていけば、単元や本時のねらいを達成し、なおかつ、言語活動の充実の目的である『思考力・判断力・表現力』を育むことができるかについて考えていきたいと思います。



○主体的な活動を展開するための単元（授業）構成とは？

『課題把握』→『課題解決の見通し』→『課題追究』→『課題解決・まとめ』といった下記のような学習のプロセスを重視することで、児童生徒が主体的に「思考・判断・表現」する場を意図的に設定することが大切なのでしょうか。

| 学習過程 | 学習活動 | 思考の流れ | 教師の働きかけ |
|--|--|--|--|
| 課題把握 | ○興味・関心や問題意識を高め、 <u>自分なりの課題をもつ。</u> | 【課題の自己決定】 ●どうして? ●調べてみたい! ●考えてみよう! | ○興味・疑問・矛盾等が生まれるような動機付け ○必要感のある学習課題の設定や提示の工夫 |
| ● 児童生徒が「学ぶ必要感」を感じる『問い合わせ』のある学習課題を設定することで、児童生徒に学ぶ必要感をもたせ、ねらいを明確にとらえさせることが大切です。 例：「だろうか？」、「どうすれば～か？」、「なぜ～なのか？」、「Aか？Bか？」 このことによって、ねらいが明確となり、まとめにも活用することができる。また、調査等の活動が必要となり、児童生徒の主体的な学習活動が期待できると思います。 ※ 詳細については、『第1回：～課題設定の工夫とは？』をご覧ください。 | | | |
| 課題解決の見通し | ○既習事項や経験したことなどに基づき、 <u>解決の見通しをもつ。</u> ○互いの見通しを知り、自分の見通しを確かなものとする。 | 【学習への見通し】 ●たぶん～になる！ ●地図帳（資料集）を見てみよう！ ●～するには、自分一人では調べられないな！ | ○結果がイメージできる予想や試行錯誤する場を設定する ○一人一人に自分の考え方や意見（予想）を持たせる工夫 ○解決の方法・手順等を交流・検討する場の設定 |
| ● 「思考力・判断力・表現力」は、児童生徒一人一人に身につけさせなければならぬものであって、そのためには、『個 → 集団 → 個』というプロセスが大切です。学校訪問等によって、『言語活動の充実』を図るために授業が数多く展開されていますが、この学習プロセスの最初の『個』が無いままに『集団』の学習に入ってしまうケースが少なくありません。児童生徒一人一人に学習課題に対する予想をもたせ、その後の学習活動についての見通しを持たせることで学習意欲を高めながら主体的学習が展開される。このことを考えれば、『課題解決の見通し』の過程をしっかりと設定することは、授業改善のための大切な視点であると思います。 | | | |

| | | | |
|---|--|--|---|
| 課題追究  | <p>○<u>自分なりの方法で課題を追究する。</u></p> <p>○互いに自分の考えを表現し合いながら、考えを深め、広げるなど<u>集団で課題を追究する。</u></p> | <p>【自力解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●他の方法はないかな？ ●解決できたのかな？ <p>【成果の共有化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●～という考え方もあるんだ！ ●あらたな発見だな！ | <p>○一人一人の追究の状況の把握と個別支援</p> <p>○話し合いの視点の明確化</p> <p>○<u>考え方の交流や比較、練り合い等の場を設定</u></p> <p>○<u>一人一人が自分の考えを整理し、表現することへの支援</u></p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 当然のことながら、自分なりの方法で課題を追究し、自力解決できない児童生徒の存在を考えられますが、その場合、『個別支援』が大きな役割を果たすことは言うまでもありません。それではどのように個別支援を進めるべきか。これについては、教師が事前に児童生徒の<u>実態を把握し、予想することにより適切な支援の方法について十分準備</u>しておくことが大切だと思います。 ● 集団で課題を追究する手段として『話し合い』が考えられます。この話し合いの場面においては、生徒の活動に任せっきりになることなく、<u>教師が適切に支援する</u>必要があります。児童生徒の考えをさらに深めるためのゆさぶりの発問をしてみたり、多様な意見を比較したり、関連づけるための視点を示すなど、<u>思考を深め、判断を求めるような支援</u>に心がけたいものである。 ● 『ディベート（討論）』を取り入れる場合は、それぞれの意見の<u>共通点と相違点を明確にする</u>などの工夫も必要だと思います。 ● 調査班と新聞班など意図的に小集団を組織し、それを組み替えることにより児童生徒一人一人が主体的に学習活動を展開する『クロスセッション』のような方法も有効であると思います。 <p>※ 児童生徒に主体的な学習を展開させるための多様な学習方法については、今後、実践例等を交えながら紹介するとともに、その有効性について考えてていきます。</p> | | |
| 課題解決 ・まとめ  | <p>○<u>自分なりの言葉でまとめをする。</u></p> <p>○学んだことを深めたりあらたな疑問を見いだしたりする。</p> <p>○次時への意欲を高める。</p> | <p>【まとめと自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●～がわかった！ ●もう一度解いて確かめよう！ ●いろいろな考え方を知ることができた！ ●次は～に挑戦したい！ | <p>○様々な意見の関連づけと整理</p> <p>○<u>自己評価や互いのよさを交流する相互評価による学習の振り返り</u></p> <p>○学習内容の定着を図る活動の位置付け</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 自分なりの言葉でまとめる一つの方法として、『問い合わせ』のある学習課題（めあて）に対する自分なりの答えを書かせるという方法が考えられます。このことを毎時間、積み重ねていくことにより、児童生徒は、「理由・根拠」を明確にした上で、社会的事象の起こった背景や影響等について説明するなど、記述式問題へも対応できるようになります。このことは、知識・技能の伝達ではなく、<u>自ら知識・技能を習得することであり当然、定着度も高くなる</u>と考えられます。 ● 自己評価や相互評価により、<u>自己の学習を振り返ることは</u>次への意欲につながる大切な活動であると思います。 | | |